様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25　年　6　月　10　日現在

機関番号：３２１０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５９２４４９

研究課題名（和文）　糖尿病患者教育における臨床看護師のコーチングスキル尺度の開発

研究課題名（英文）　Development of the Scales of Coaching Skills of Clinical Nurses in the Education of Diabetics

研究代表者
直成　洋子（SUGUNARI YOKO）
茨城キリスト教大学・看護学部・教授
研究者番号:70341998

研究成果の概要（和文）：糖尿病患者教育に関わる臨床看護師のコーチングスキルの一つである積極的傾聴態度に焦点をあてて調査した。積極的傾聴態度は、『傾聴の態度』と『聴き方』の 2 つの下位尺度で構成され、臨床看護師の積極的傾聴態度得点は比較的高値を示していた。
また、糖尿病患者教育に関わる臨床看護師の積極的傾聴態度に、「臨床経験年数」、「職位」、「資格」が関連していることが示唆された。今後は、臨床看護師の糖尿病看護実践について 総合的に評価を行い検討することが課題である。

研究成果の概要（英文）： I made the survey focusing on active listening attitude, which is one of the coaching skills of clinical nurses involved in the education of diabetics. Active listening attitude is composed of two subscales: “attitude of listening” and “how to listen.” The scores of active listening attitude of clinical nurses were relatively high.
Also, it has been suggested that “clinical experience”“position” and “qualification” are related to active listening attitude. In the future, we have to face the challenge to perform and consider a comprehensive evaluation of diabetic nursing practice by clinical nurses.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	500,000 円	150,000 円	650,000 円
２０１１年度	400,000 円	120,000 円	520,000 円
２０１２年度	400,000 円	120,000 円	520,000 円
総　計	1,300,000 円	390,000 円	1,690,000 円

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：臨床看護学
キーワード：糖尿病看護、患者教育、コーチング、積極的傾聴態度、臨床看護師

１．研究開始当初の背景

新たな生活習慣病予防対策として、生活習慣病の有病率・予備軍を 2008 年度から 2015 年度までに 25%減らす政策目標が提示され、専門職としての看護職への期待は大きく、糖尿病などの患者教育に関する有

効な戦略が急務となっている。

近年、臨床の場では平均在院日数の短縮が進められ、糖尿病患者の管理が病院から在宅へと移行しつつある。そのため、糖尿病患者の臨床看護師の関わりの実態と今後の課題を明らかにすることが重要であると考えた。

研究開始当初は、コーチングスキル尺度を開発した上で実態調査を行い、今後の課題を明確にする予定であった。しかし、申請者が勤務場所を異動したことや 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災により研究過程が遅れたこと等に伴って急遽、既存の尺度を使用し研究目的を達成できるよう調査を進めることとなった。

2．研究の目的

糖尿病患者教育推進に向けて、臨床看護師の患者教育の実態と今後の課題を検討するために、糖尿病患者教育に携わる看護師のコーチングスキルのなかでも積極的傾聴態度に焦点をあてて、その実態と関連する要因を明らかにすることを目的とした。

3．研究の方法

初年度は、糖尿病看護と患者教育に関する文献およびコーチングスキルの文献検討を行なった。コーチングスキルのなかでも傾聴に関する尺度開発がなされていた。

2 年目は、積極的傾聴態度尺度の開発者に許諾を得て、臨床看護師および糖尿病看護に関わる臨床看護師の積極的傾聴態度に焦点をあてて調査を実施した。

3 年目は、その研究成果を公表した。

調査は、次の 1)・2)を実施した。

1)「総合病院における看護師の積極的傾聴態度に関する調査」

2)「慢性病看護に関わる看護師の積極的傾聴態度に関する調査」

まず、1)の調査について概要を示す。

総合病院で糖尿病看護に携わる看護師を対象に質問紙調査を実施した。

(1) 対象者の背景：年齢、性別、職位、特定の資格の有無、臨床経験年数、看護教育背景であった。

(2) 調査項目：Mishima N,et al が開発した積極的傾聴態度尺度（Active Listening Attitude Scale,『ALAS』）を用いて、＜傾聴の態度＞と＜聴き方＞の 2 下位尺度各 10 項目の合計 20 項目について 4 段階評定で行なった。

(3) 調査方法：留め置き法による自記式質問紙調査を実施した。

(4) 分析方法：統計ソフト SPSSVer.19.0 for windows を用いた。『ALAS』尺度の信頼性係数を求め、平均得点を算出した。『ALAS』得点と各変数との関連の検討は、Mann-Whitney の U 検定、Kruskal-Wallis 検定を行い、統計的有意水準は 5%とした。

倫理的配慮として、対象者に研究目的、方法、意義、自由意思による研究協力、拒否権、個人情報の守秘、結果の公表などを書面で説明し、同意が得られる場合には調査票を提出するように依頼した。調査票は看護部を通して該当する部署に回収袋を設置し、厳封の上回収した。また、積極的傾聴態度尺度は開発者の許諾を得て使用した。なお本調査は A 大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

次に 2)の調査について概要を示す。

慢性病看護に関わる看護師を対象に質問紙調査を実施した。

(1) 対象者の背景：年齢、性別、職位、特定の資格の有無、臨床経験年数、看護教育背景であった。

(2) 調査項目：

①Mishima N,et al が開発した積極的傾聴態度尺度（Active Listening Attitude Scale,『ALAS』）を用いて、＜傾聴の態度＞と＜聴き方＞の 2 下位尺度各 10 項目の合計 20 項目について 4 段階評定で行なった。

②社会的スキル Kikuchi's social skill『Kiss-18』（Kikuchi A,1988）短縮・日本語訳を使用した。この尺度は、＜初歩的スキル＞、＜高度のスキル＞、＜感情処理のスキル＞、＜攻撃に代わるスキル＞、＜ストレス処理のスキル＞、＜計画のスキル＞の 6 下位尺度について各 3 項目からなり合計 18 項目について、「いつもそうでない」「たいていそうでない」「どちらともいえない」「たいていそうだ」「いつもそうだ」の 5 段階評定で調査した。

(3) 調査方法：留め置き法による自記式質問紙調査を実施した。

(4) 分析方法：統計ソフト SPSSVer.19.0 for Windows を用いた。『ALAS』、『Kiss-18』の度数分布、記述統計量をおよび正規性を確認した。『ALAS』と『Kiss 18』の尺度の信頼性係数を求め、平均得点を算出した。また、『ALAS』得点と各変数との関連の検討は、Mann-Whitney の U 検定、Kruskal-Wallis 検定を行い、統計的有意水準は 5%とした。『ALAS』と『Kiss -18』の高群・低群との関連について Mann-Whitney の U 検定を行っ

た。また、『ALAS』と『Kiss-18』間の相関および下位尺度ごとに Spearman の順位相関係数を求めた。

倫理的配慮として、対象者に研究目的、方法、意義、自由意思による研究協力、拒否権、個人情報の守秘、結果の公表などを書面で説明し、同意が得られる場合には調査票を提出するように依頼した。調査票は看護部を通して該当する部署に回収袋を設置し、厳封の上回収した。また、積極的傾聴態度尺度は開発者の許諾を得て使用した。なお本調査は A 大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4．研究成果

先行研究では、一般人を対象とした報告が多く、職場の研修についての調査報告はみられた。が、看護職を対象に調査した報告はみられなかった。そのため、今回の対象である臨床看護師の積極的傾聴態度は一般人より高い結果であった。

次に各 1)･2)の研究成果について述べる。

1)「総合病院における看護師の積極的傾聴態度に関する調査」

調査に同意が得られた対象者250名の背景は女性が 236 名（96.7%）で多く、平均年齢は 33.8 歳（範囲 21 歳～61 歳）であった。勤務場所は混合を含む内科系が 131 名(53.7%)で最も多く、職位はスタッフが 216 名（88.5%）と大半を占めていた。特定の資格のないものは 206 名（84.4%）、有の者は 38 名（15.6%）であった。臨床経験年数は平均 11.6 年（範囲 1 年～40 年）、看護教育背景は専門学校が 179 名（73.4%）であった。

本研究で使用した尺度の Cronbach'sα は『ALAS』0.84 で、2 下位尺度の＜傾聴の態度＞は 0.85、＜聴き方＞は 0.72 であった。下位尺度別合計得点は、＜傾聴の態度＞が 21.6(SD4.5)点で、＜聴き方＞が 20.5(SD3.0)点で、傾聴の態度得点が高かった。

『ALAS』と各変数との関連を検討した結果、『ALAS』の質問項目の 6 項目において職位別で管理職の者が、5 項目において資格の有無で有の者が、3 項目において臨床経験年数別で 10 年以上の者が 1 項目において看護教育背景別で大学・大学院の者および年齢別で 50 歳以上の者の平均得点が高く有意差がみられた。

本研究結果から、対象者の背景では、職位、特定の資格を有する者、臨床経験年数が積極的傾聴態度における聴き方や傾聴の態度に影響していることが明らかになった。

2)「慢性病看護に関わる看護師の積極的傾聴態度に関する調査」

調査に同意が得られた対象者 131 名の背景は、年齢は 22～61 歳で平均年齢 33.7（SD=9.97）歳、性別は女性 125 名（95.4％）、職位はスタッフ 112 名（85.5%）であった。また、特定の資格なしの者が 104 名（79.4%）、臨床経験年数は 1～40 年で平均 11.6（SD=9.53）年、看護教育背景は専門学校が 95 名（72.5%）を占めていた。本研究で使用した尺度の Cronbach's α は『ALAS』0.83、下位尺度の＜傾聴的態度＞は 0.82、＜聴き方＞は 0.71 であった。また、下位尺度別合計得点は、＜傾聴の態度＞が 21.5(SD4.1)点、＜聴き方＞が 20.8(SD 2.9)点であった。『Kiss 18』の Cronbach's α は 0.86 であった。

『ALAS』と各変数の関連を検討した結果、『ALAS』の質問項目の年齢で 50 歳以上が 3 項目、性別で男性が 2 項目、職位で管理職が 1 項目、特定の資格ありの者が 2 項目、臨床経験年数で、5 年以上 10 年未満の者が 1 項目、10 年以上の者が 4 項目でそれぞれ平均得点が高く有意差がみられた。

また、『Kiss 18』の平均値を基準に、60 点以上を高群、60 点未満を低群とし『ALAS』と『Kiss 18』の高群と低群で比較した結果 6 項目で関連が認められた。『ALAS』の総合得点と『Kiss 18』の総合得点の間に正の相関（$r=0.313, p<0.01$）がみられた。また、『ALAS』の＜傾聴の態度＞と『Kiss 18』では＜高度のスキル＞、＜計画のスキル＞、＜ストレス処理のスキル＞の 3 下位尺度で､他方、『ALAS』の＜聴き方＞と『Kiss 18』では＜初歩のスキル＞、＜攻撃に代わるスキル＞、＜計画のスキル＞の 3 下位尺度において有意に関連していた。

本研究結果から、対象者の背景では、年齢、性別、職位、特定の資格を有する者、臨床経験年数が積極的傾聴態度における聴き方や傾聴の態度に影響していることが明らかになった。すなわち、管理職の者はスタッフよりも相手の話の細かい部分にこだわらず聴く態度が身についていると考えられた。特定の資格のある者はない者より相談に応じており肯定的な聴き方や安定して聴く姿勢をもっていることが示された。また、臨床経験年数が 10 年以上では、相談に対して相手の立場になってゆとりのある聴き方ができていることが示された。

また、看護師の積極的傾聴態度と社会的スキルの間に正の相関がみられた。こ

のことから、看護師の患者への傾聴の姿勢や態度は、対人関係を円滑に結ぶ技術である社会的スキルの獲得に関連していることが明らかになった。

つまり、1)および 2)の結果から、研究成果として、糖尿病患者教育に関わる臨床看護師の「職位」が管理職の者、「資格」では特定の資格のある者、「臨床経験年数」では 10 年以上の臨床経験者が＜聴き方＞および＜傾聴の態度＞に関連していることが示唆された。

今後は、糖尿病患者の看護に関わる臨床看護師の特定の資格について、糖尿病療養指導士、糖尿病看護認定看護師、慢性看護専門看護師など具体的に検討することが必要であると考える。また、臨床看護師の糖尿病看護実践について総合的な視点で評価を行い検討することが課題である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① 直成洋子，板垣雅美，渡辺春華：外来通院している 2 型糖尿病男性患者の生活上の困難さ, 茨城キリスト教大学紀要, 2(1), 37-44，(2011).
② 垣田好美，直成洋子：2 型糖尿病男性患者の療養行動についての前向きな気持ちー教育入院退院後 2 週間に焦点をあててー日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ，42，23-26，(2012).

〔学会発表〕（計 4 件）

① 前田和子，直成洋子，橋本歩美：総合病院における看護師の積極的傾聴態度に関する検討, 第 32 回日本看護科学学会，(2012).
② 直成洋子，前田和子，橋本歩美：総合病院における看護師の積極的傾聴態度に関連する要因の検討，第 32 回日本看護科学学会，(2012).
③ 前田和子，直成洋子，橋本歩美：慢性病看護に携わる看護師の積極的傾聴態度ー積極的傾聴態度に関連する要因ー，第 43 回日本看護学会 成人看護Ⅱ，(2012).
④ 直成洋子，前田和子，橋本歩美：慢性病看護に携わる看護師の積極的傾聴態度ー積極的傾聴態度と社会的スキルの関連ー, 第 43 回日本看護学会 成人看護Ⅱ，(2012).

６．研究組織

(1)研究代表者
直成 洋子（SUGUNARI YOKO）
茨城キリスト教大学・看護学部・教授
研究者番号：70341998

(2)研究分担者
前田 和子（MAEDA KAZUKO）
茨城キリスト教大学・看護学部・助教
研究者番号：70616440

橋本 歩美（HASHIMTO AYUMI）
茨城キリスト教大学・看護学部・助教
研究者番号：80616441